

第4回肱川橋周辺まちづくり検討委員会

議 事 次 第

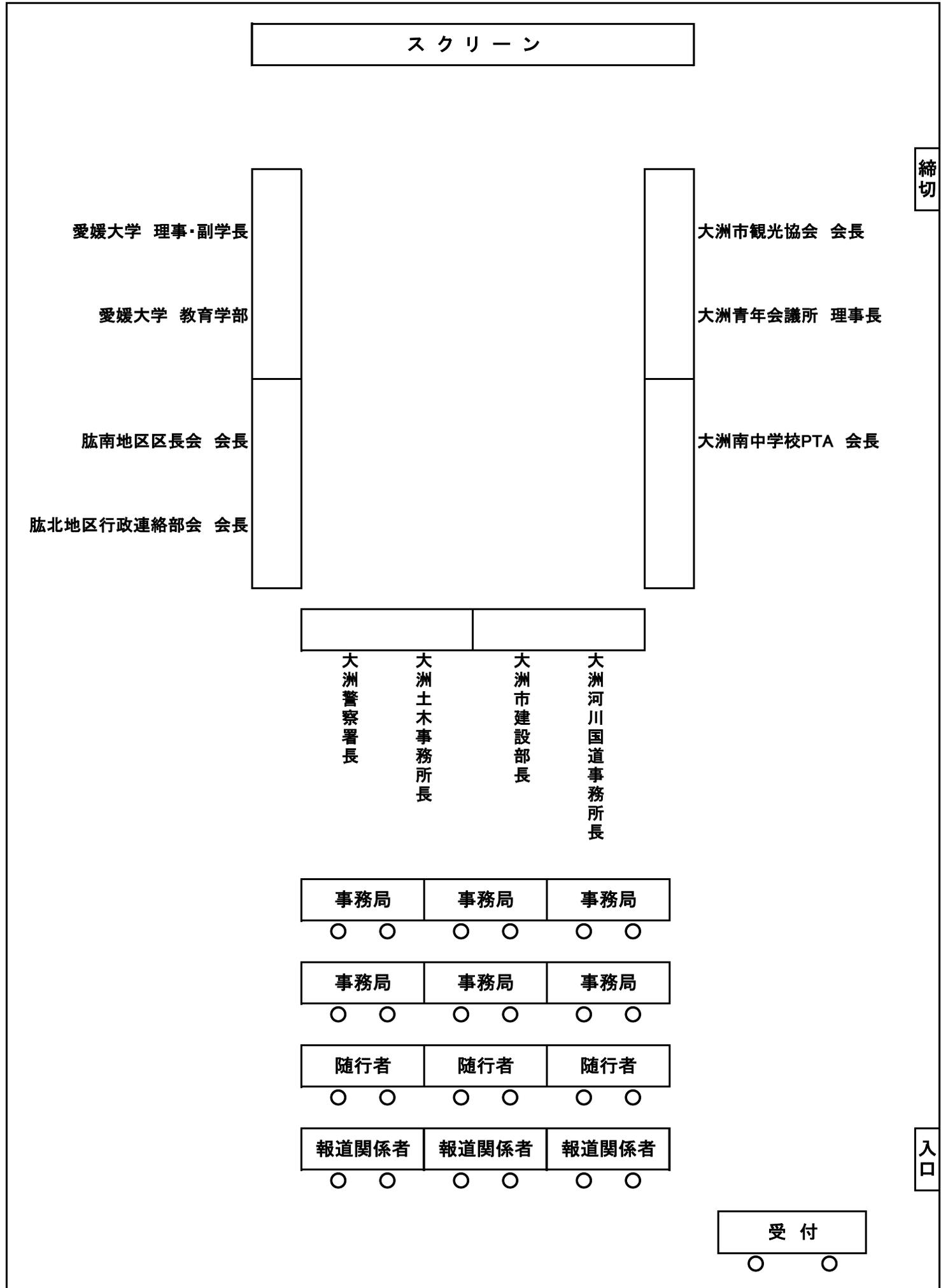
日時：平成29年12月22日（金） 10:00～12:00

場所：大洲河川国道事務所 2階会議室

1. 開会
2. 主催者挨拶 大洲河川国道事務所長
3. 委員紹介
4. 委員長挨拶
5. 議事
 - 1) これまでの経緯
 - 2) 歩道舗装、道路附属物の検討
 - 3) 全体のまとめ
 - 4) 質疑応答
6. 閉会

第4回 肱川橋周辺まちづくり検討委員会

席次表



An aerial photograph of a town in Japan, featuring a wide river and a large bridge. The town is densely packed with buildings, and the river flows through the center. The bridge spans across the river, connecting two parts of the town. The text is overlaid on the image in a stylized, bold font.

肱川橋周辺まちづくり検討委員会

第4回 説明資料

国土交通省 大洲河川国道事務所

平成29年 12月22 日

目次

1. これまでの経緯
 2. 歩道舗装、道路附属物の検討
 3. 全体のまとめ
- 【参考】 現在までの工事進捗状況**

§ 1. これまでの経緯

§ 1-1. 事業の目的・内容

■ 事業の目的

- ・ 現橋の耐震性能不足の解消
- ・ 現橋の河積阻害を解消し、肱川の治水上の安全性の向上
- ・ 歩道の拡幅による、歩行者・自転車の走行安全性の向上

■ 事業内容

- ・ 平成21年度～ 橋梁架替事業
- ・ 平成23年度～ 大洲交差点改良事業・電線共同溝整備



■ 構造諸元

- ・ 橋 長：L=184m
- ・ 縦断勾配：imax=5.0% 幅員：3.5+0.5+3.25×2車線+0.5+3.5=14.5m

§ 1-2. 事業地の概要

■ 大洲市景観計画における「景観計画区域」に該当

【肱川橋】

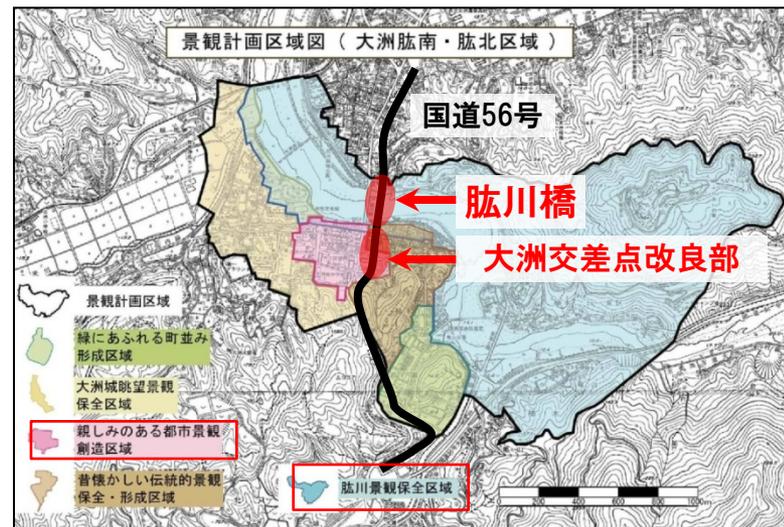
【肱川景観保全区域】（要約）

「大洲城や修景護岸の織り成す景観」や「水と緑の調和した美しい景観」を適正に保全していくため、周囲の緑の保全とそれに調和した景観を創出する区域

【大洲交差点改良部】

【親しみのある都市景観創造区域】（要約）

商店街を中心に、親しみやすく美しい都市景観の創出に取り組む区域



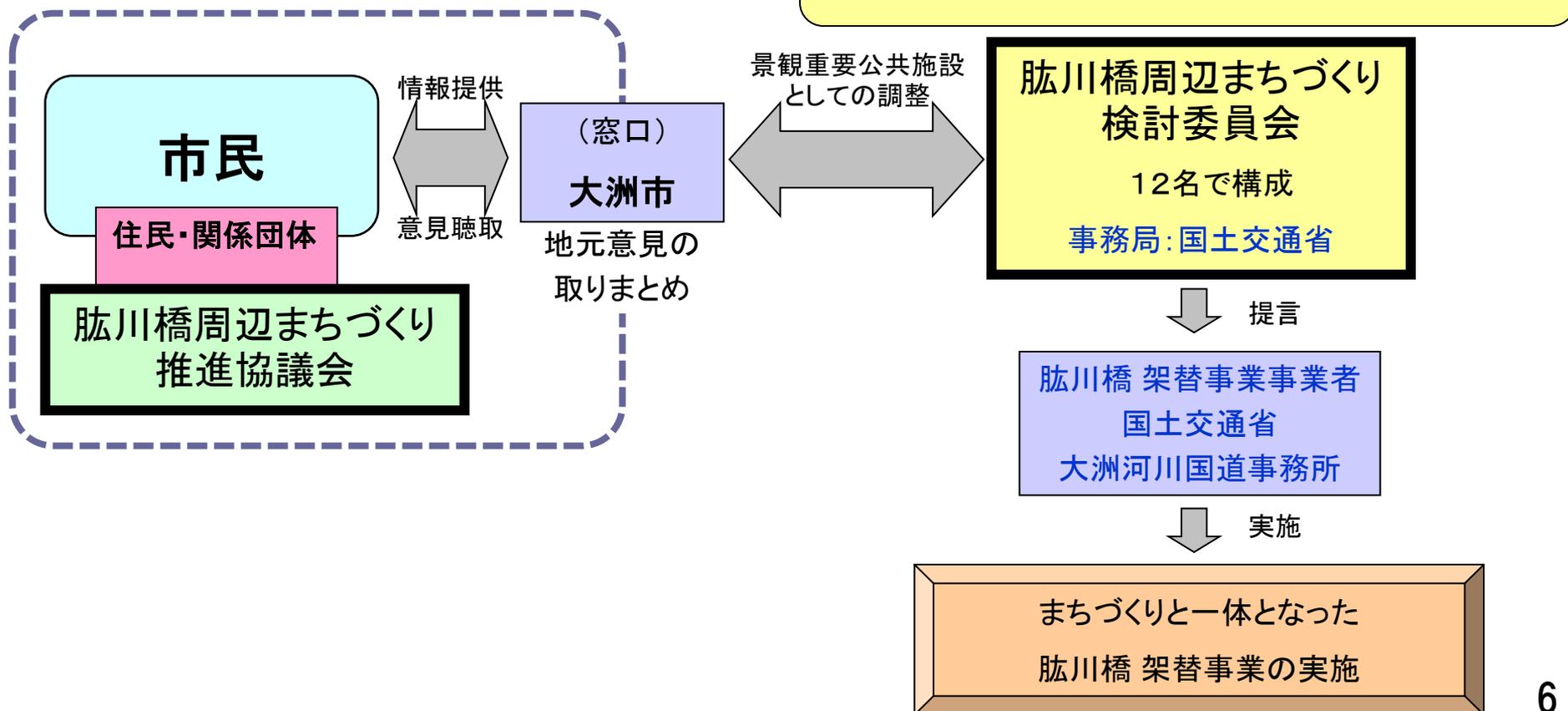
大洲市景観計画「景観計画区域図」より

■ 同様に国道56号が「景観重要公共施設」に該当

各景観区域の方針に基づき、町並み景観等をより良い方向へ導くような先導的整備に努める。

§ 1-3. これまでの委員会検討内容

■ 検討委員会の位置づけ (市民合意形成体系図)



■ 主な検討内容

肱川橋周辺まちづくり検討委員会

第1回（平成21年 9月 8日）

- ・ 橋梁架替事業の必要性の確認
- ・ 設計条件の確認
- ・ デザインコンセプトの設定

第3回（平成23年 7月28日）

- ・ 橋梁デザイン検討
～桁下の見え方（添架管）
～水位観測所デザイン
- ・ 街路デザイン【参考】

第2回（平成21年12月18日）

- ・ 橋梁形式の選定
- ・ 歩行者空間のデザイン検討
～橋上空間のデザイン検討～
～街路空間のデザイン検討～

個別訪問（平成28年 1月）

- ・ 橋上バルコニーの設置

§ 1-4. 橋梁デザイン

① デザイン方針

- 架替え橋は、修景護岸の高さを超えない控え目な形態とし、大洲城や豊かな周辺の自然景観に融和したデザインとする。



- 橋上や大洲交差点改良部は、地域の歴史・文化をより良い方向に導く先導的整備に努め、使い易く美しい、将来を見据えたまちづくりに貢献する。

※「大洲市景観計画」より抜粋

「親しみのある都市景観創造区域」の町並みのイメージ

② デザインコンセプト

- 風景 ▶ 歴史と緑に囲まれた河畔を引き立てる控えめな橋
- 橋上 ▶ どこからも安心して景色や雰囲気を楽しめる橋
- 街路 ▶ 地域の大動脈に相応しい風格と憩いのある道

③ 橋梁形式

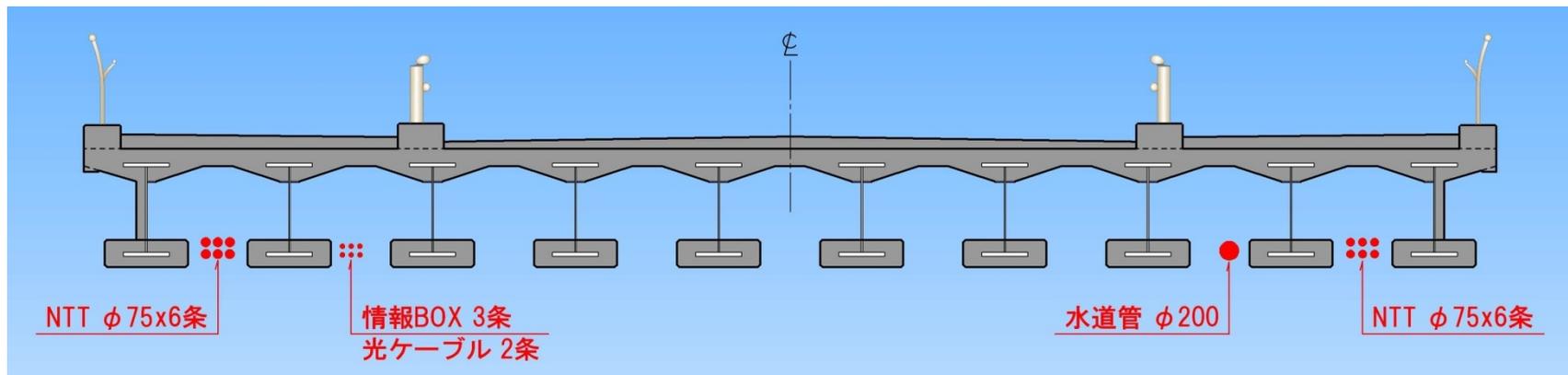
	2径間－斜張橋	3径間－アーチ	4径間－トラス	4径間－桁橋
模型写真				

総合評価の結果、デザインコンセプトに最も合致し、経済性・構造的性に優れる「4径間－桁橋」を選定しました。



上部工は、左岸右岸の既存道路高さに合わせるため、桁高を低くおさえることが可能なプレビーム合成桁を採用しています。

④ 桁下の見え方（添架管）

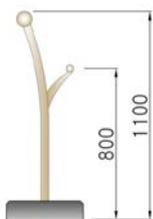


添架管については、**桁内に収め**（桁間に設置）、また**目立ちにくい色彩（グレー系）**とすることで、通常の視点から気にならない存在とします。

§ 1-5. 橋上空間のデザイン

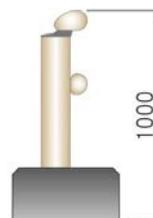
① 高欄・防護柵・バルコニー

■ 高欄



本橋の特徴である周辺の豊かな自然環境を楽しめるような、開放感があり、地域性を醸成させる**オリジナルデザイン**を採用しました。

■ 車両防護柵



車両衝突時の取替え可能性を踏まえて既製品とし、歩道側からの外観がシンプルな製品を採用しました。

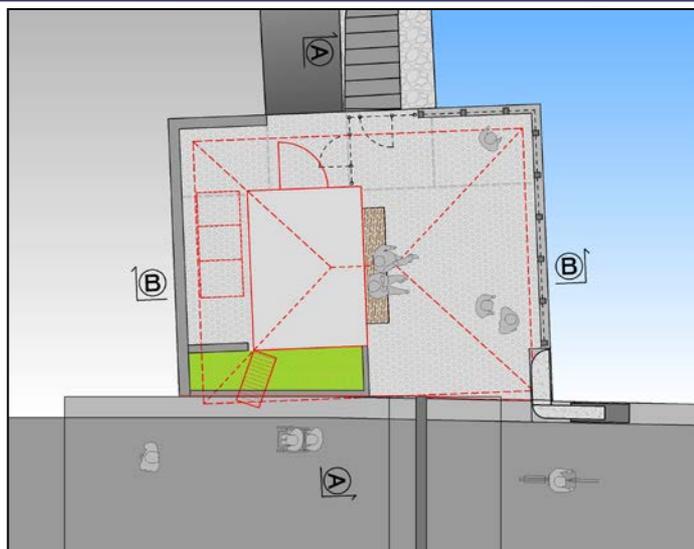
■ バルコニー

橋上からの展望や景観、利便性に配慮し橋脚位置両側計6ヶ所に設置。

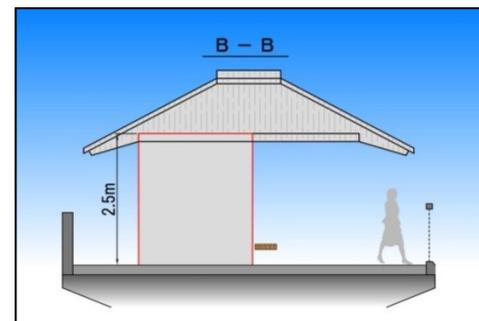
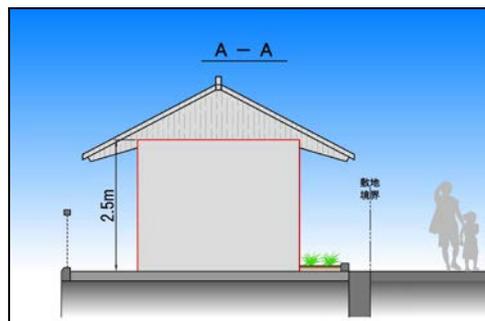


高欄・防護柵の塗装色については、周辺の自然景観への配慮を行い、『景観に配慮した道路附属物等ガイドライン』に基づきグレーベージュを選定しました。

§ 1-6. 水位観測所のデザイン



- ・ 現況と同様に**四阿（あずまや）**を備えた建屋とし、日除けを提供します。
- ・ 大洲城や修景護岸に合わせ、**瓦屋根**とします。



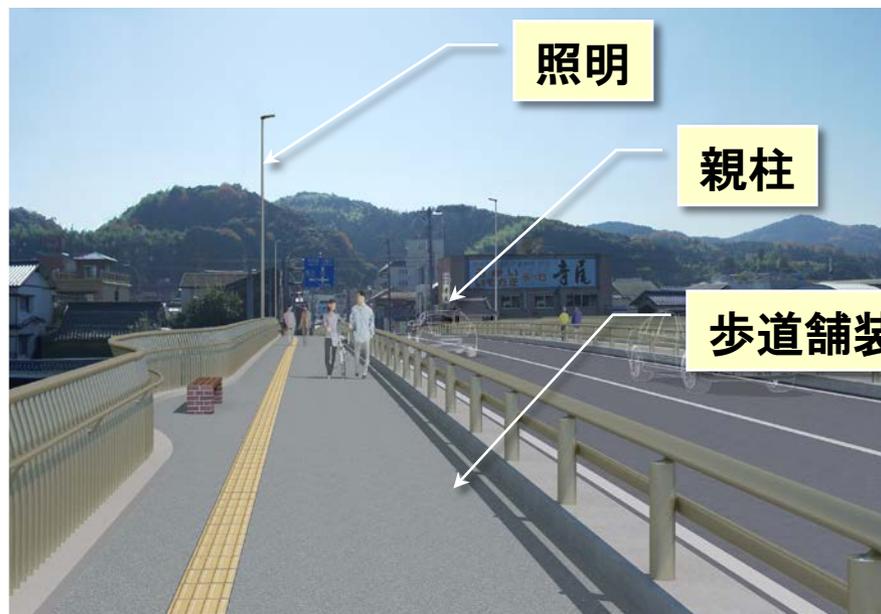
§ 2. 歩道舗装、道路附属物の検討

§ 2-1. 第4回委員会の審議事項

- 歩道舗装
- 親柱
- 照明
- バス停



肱川上流側からの橋梁外観遠望



橋上からの景観



大洲交差点改良部の景観

§ 2-2. 歩道舗装

■ 歩道舗装の検討

第1案

アスファルト舗装（黒色）



- 一般的に使用されている舗装であり個性を主張しないものの、景観に配慮したとはいえない。
- メンテナンス時の新旧部分の色合わせは比較的容易に行える。

コスト比 1.0

第2案

推奨

脱色アスファルト



- 骨材の素材色が舗装表面に現れ、表情豊かで親しみやすい印象を与える。
- 車道舗装や道路照明、防護柵類と調和し、落ち着いた印象を与える。

コスト比 2.5

第3案

カラーアスファルト舗装



- 舗装色はベンガラ色の他に顔料を替えることで、色彩選択の自由度を有する。
- 単色の顔料を使用するがゆえに無機質な印象を与える。

コスト比 2.7

- ・ 舗装厚を薄くでき、橋面防水性に優れる「アスファルト舗装」を基本とします。
- ・ 色彩的に周囲と調和し、素材感にも優れる「第2案」を推奨します。

■歩道舗装の完成予想図



§ 2-3. 親柱

■親柱デザインの検討

第1案

御影石使用



- 前回委員会案より1案抽出。橋梁のサイドビューをモチーフとした案。
- 円弧によって収める形状とし、太鼓橋となる橋梁始終点を端的に表した。
- 白黒の御影石の組合せにより、圧迫感を低減した。

コスト比 4.0

第2案

青石使用



- 愛媛県内で多く産出される青石を用いて、地域性を表現した案。
- 自然石を用いた親柱は他に類を見ないが、橋梁空間によく馴染む。
- 親柱に使用可能な大きさの県内青石の入手が困難。

コスト比 3.3

第3案

推奨

レンガ使用



- 地域を代表する歴史的建造物、おおず赤煉瓦館をモチーフとした案である。
- 四代に渡る肱川橋の歴史性を重んじ、初代・肱川橋の橋脚で使用されていたレンガ及び石材を活用する。

コスト比 1.0

親柱は、地域性と歴史性をさりげなく表現した「第3案」を推奨します。

■親柱の完成予想図



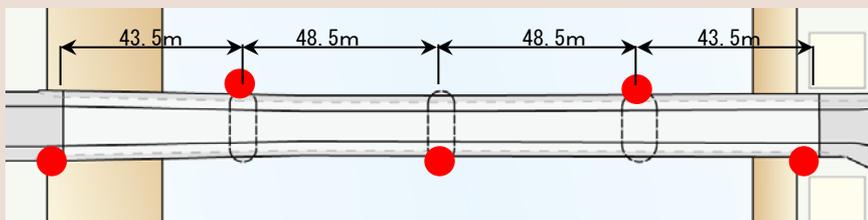
初代肱川橋の橋脚で使用されていたレンガ及び石材

§ 2-4. 照明及びバス停

■ 照明配置の検討

旧案

橋脚位置への配置



○橋脚位置に限定して配置することで橋梁部の外部景観に配慮した案であったが、バルコニーの設置によりバルコニーからの展望阻害とならない位置への配置変更が必要となった。

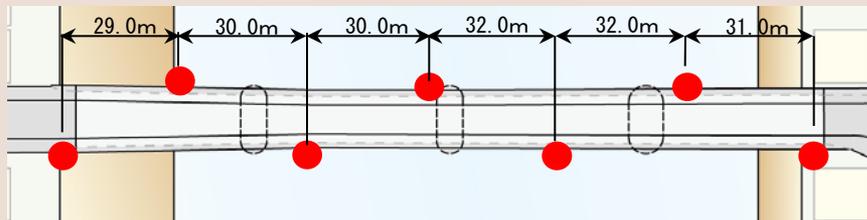


コスト比 1.0

新案

推奨

等間隔での配置



○等間隔に配置するとともに、シンプルな構造の直線柱にすることにより周辺景観と調和を図った案。構造的、維持管理性にも優れる。

○大洲交差点改良部と照明配置、形状とも整合が図られ道路空間上の景観に優れる。



コスト比 1.1

照明は、橋梁・街路で統一感のある景観形成が図れる「新案」を推奨します。

■ 照明及びバス停の完成予想図

○ 照明



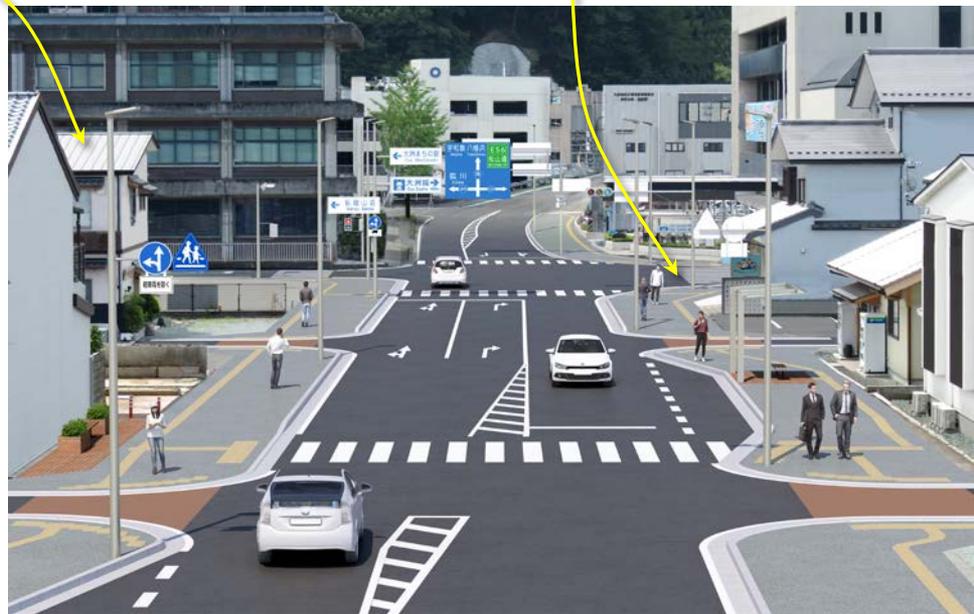
形状は周辺景観に調和するシンプルな構造の直線柱とし、色彩は防護柵と同一色のグレーベージュを推奨します。



○ バス停



バス利用者に配慮した上屋付きのバス停を整備予定です。色彩は防護柵と同一色のグレーベージュを推奨します。



§ 3. 全体のまとめ

～推奨案を反映した完成予想図～

■ 橋梁外観（肱川上流から下流側を望む）



■ 橋梁外観（肱川下流から上流側を望む）



■ 橋梁外観
(右岸下流側桁下から望む)



■ 橋梁外観 (桁下の拡大)



■ 橋上の景観



■ 親柱・水位観測所の景観



■ 大洲交差点改良部の景観 (肱川橋から大洲市役所側を望む)



【参考】 現在までの工事進捗状況

■ 現在までの工事進捗状況（肱川橋）

工事着手前

至
宇和島市



至
松山市

迂回路仮橋着手（平成27年8月）



迂回路仮橋へ切替（平成28年10月）



至 松山市

至 宇和島市

現場見学会（平成28年8月）



肱川橋感謝イベント（平成28年10月30日）



■ 現在までの工事進捗状況（肱川橋）

既設橋梁上部撤去開始（平成29年1月）



既設橋梁下部工撤去開始（平成29年2月）



現在の工事状況（平成29年11月現在）



至
松山市

至
宇和島市

現場見学会（平成29年3月）



■ 現在までの工事進捗状況（大洲交差点改良部）

工事着手前



大洲地区通学路合同点検（平成28年6月17日）



暫定歩道完成（平成29年8月）※平成29年2月工事着手



通学路合同点検状況

点検後の意見交換



第4回 肱川橋周辺まちづくり検討委員会 議事録（概要版）

日時：平成29年12月22日（金）10:00～11:30

場所：国土交通省大洲河川国道事務所 会議室

出席者：委員11名 他

開会

議事

主催者挨拶

当委員会は、老朽化した旧橋の架替工事に併せて、周辺の景観・まちづくりを目的に平成21年度に設立したもので、これまでの委員会では主に肱川橋本体のデザイン、色彩の検討を行ってきたところである。

現在は、迂回路仮橋への交通切替を行い、旧橋撤去工事を進めており、本日と明日には大正2年に完成したレンガ造りの橋脚の現地見学会も予定している。

今後は、架替事業と併せて肱川橋の肱南地区側から大洲市役所にかけての大洲交差点改良事業と連携して、魅力あるまちづくりを進めていきたい。

今回の委員会は、橋梁の親柱、橋梁及び街路における歩道舗装及び道路照明のデザイン・色彩について議論いただき、ご意見を伺いたい。

委員紹介

規約変更、委員長選任

事務局

委員長挨拶

委員長

私は第1回委員会から参画しているが、現在は迂回路仮橋の供用、旧橋の撤去及び新橋の施工に入った段階であり、今回の委員会は最後の詰めに当たる審議を行うこととなっている。

1. これまでの経緯

事務局

【第4回説明資料 P.3～12の説明】

2. 歩道舗装、道路附属物の検討

事務局

【第4回説明資料 P13～20の説明】

3. 全体のまとめ

事務局

【第4回説明資料 P21～31の説明】

4. 質疑応答

歩道舗装の検討について

委員長

歩道舗装の検討については、3案を比較検討され、事務局としては第2案「脱色アスファルト舗装」を推奨されている。これについて、ご意見・ご質問を伺いたい。

C委員

新橋では歩道を自転車も通行するとのことであり、大洲市の肱川橋周辺まちづくり推進協議会で、アスファルト舗装の色分けにより、自転車通行帯の明示について検討をお願いしたところであるがどう考えられているか。

事務局

自転車は原則として車道の左端を通行すべきとされているが、安全上やむを得ない場合には、自転車の歩道通行が認められている。これを受けて、新橋における歩道内の色分けや自転車通行帯の設置は行わないものとしている。

C委員

実際、自転車が車道を走行する場合、自動車から見ると危険と思われる。

橋の利用者は高校生が多く、また日中も歩行者より自転車の利用が比較的多い。

自転車に歩道内を通行させる場合は、手押しで通行させるなど、歩行者・車椅子利用者の安全を考慮した指導を行う必要がある。

これらの状況を踏まえて、安全面での運用を再度検討いただきたい。

委員長

自転車通行帯の明示について、地元住民からの要望であるが法律上可能なのか。不可能であれば、議論をしても意味がない。

H委員

旧橋及び現在の仮橋は、公安委員会による交通規制を設けており、現状で歩道内の自転車通行は可能となっている。なお、舗装のカラーリングは別の話であり、カラーリングがなくても法律上は問題ない。

E委員

私も肱川橋をよく利用するが、高校生の自転車利用が多い。現在の歩道は2人歩行+自転車では狭く感じる。新橋では歩車道境界に防護柵が設置されるため、自転

車は歩道を通行する事が多いと思う。そして、歩道に設置する視覚障害者誘導ブロックを目印に、自然と歩行者と自転車が振り分けられ、外側を歩行者、車道側を自転車、という形で通行が区分されると思われ、カラーリングは必要ないと感じられる。

H委員

歩道内を自転車が通行する場合は、車道側に近いところを走るべき、というルールとなっている。

委員長

議事を歩道舗装に戻すが、事務局からの提案の第2案を採用することでよいか。

各委員

異議なし。

委員長

委員会としては、第2案「脱色アスファルト舗装」に決定する。

親柱の検討について

委員長

親柱については、前回委員会では第1案（御影石利用）を推奨されていたが、その後旧橋撤去工事で初代肱川橋のレンガが採取され歴史性を重んじ、第3案（レンガ使用）を推奨されている。これについて、ご意見・ご質問を伺いたい。

C委員

大洲市の肱川橋周辺まちづくり推進協議会で説明を受けた際、レンガ案は真四角な絵を示されていたため、もう少し形状を工夫して、例えば第1案のような形状に対してレンガを使用するといった案はできないか。

委員長

C委員の提案のような案は可能か。

事務局

今回の資料では判りにくいと思うが、事務局としては大洲市の肱川橋周辺まちづくり推進協議会や本委員会の事前説明でご意見を伺い、親柱端部に旧橋の石材（御影石）を活用して丸みを帯びたデザインとしており、ご意見の反映を行っている。ただし細部については検討する余地はある。

C委員

了解した。

B委員

初代肱川橋のレンガを用いることで地域の歴史性に因んだまちづくりを図る方向性は良いと思う。

ただし、親柱の細部についてはもう少し検討をお願いしたい。

また、バルコニーのベンチにもレンガを使用されているが、親柱とイメージの合致したデザインを今後検討いただきたい。

事務局

バルコニーのベンチは、元々は既製品を予定していたが、親柱とイメージを合わせるため、同じ素材のレンガを使用する方向で検討した。具体のデザインについては、今後検討を行う。

E委員

バルコニーにベンチは必要だろうか。私も肱川橋はよく利用するが、橋の途中で立ち止まることはあっても座る人がいるように思われない。設置したとなると、その理由が問題となる。

委員長

新橋にバルコニーを設置することになったので、新たにベンチを設けられることになったと思われるが、地元の意見として、F委員にも見解を伺いたい。

F委員

座る目的としては必要性が低いと思うが、モニュメントとしては面白いと思う。製作時に小学生や子供たちを参画させ、絵画や名前などのプレートを張り付けるなど、考えてみてもよいと思う。

委員長

ベンチの設置や仕様については直接今回の審議事項ではないが、今回決定する必要があるか。

事務局

事業者の立場からは、なるべく今回決定しておきたい。

D委員

これまでの大洲市での委員会において、デザインの詳細は別として、バルコニー

及びベンチの設置については、地元の要望を踏まえて決定されたことであり、それを再度見直すことは受け入れがたい。

C委員

旧橋や現在の仮橋でも、歩道上で観光客が立ち止まって写真撮影をされることがあり、危ないと感じることが多いことから、バルコニーやベンチは必要である。

委員長

バルコニーにベンチを設置することについて決定でよいか。

各委員

異議なし。

委員長

委員会としては、バルコニーにベンチを設置することとし、親柱及びベンチのデザインはレンガ使用を基本とする。

照明及びバス停の検討について

委員長

今回見直された橋梁部の照明配置及び照明柱・バス停建屋の色彩について、ご意見・ご質問を伺いたい。

C委員

大洲交差点改良部のパースについて、自動車で肱北地区から橋を渡って肱南地区に来た際、橋を渡ってすぐ右折して商店街に入る車が多いため、右折レーン等の区画線を適切に設けていただきたい。

事務局

ご指摘の市道本町線との交差点においては、今回の国道拡幅の際に右折レーンを設ける計画である。

C委員

了解した。

委員長

照明及びバス停の計画については、事務局の提案どおりでよいか。

各委員

異議なし

委員長

委員会としては、事務局提示の案にて決定する。

その他

委員長

その他、全体を通して、何かご意見・ご質問はないか。

今回の議事は全て終了したのでこれで終わりたい。

事務局

議事は全て終了したので、本日の委員会はこれにて閉会とする。

本日決定した事項及びいただいたご意見を参考に、引き続き設計・工事を進めて参りたい。

なお、肱川橋周辺まちづくり検討委員会としては、今回全体のまとめまで行っていただき完了と考えている。今後、事業を進めて行く中で、本委員会でご意見を伺うべき事項が生じた際には開催させていただきたい。

閉会